

子どもたちに 核兵器のない世界を

核兵器廃絶メールニュース
現地からの報告

第3号 2010年5月3日

ニューヨークに核兵器廃絶の声ひびかす 2日パレードに1万人、街頭行動に続々署名



5月1日までにすべてのコースがニューヨーク入りし、2日は朝から一斉に街頭署名にとりくみました。千羽ヅル、ゼッケン、横断幕、被爆写真などを持った参加者は、日曜日の買い物や観光で市民が集まる街角や公園で、Paper cranes Please などと折り鶴を配り、署名を呼びかけました。Please your Signature. Lets abolish Nuclear Weapons!など、片言の英語の呼びかけにも、多くの市民が足を止め、折り鶴を手にとり、Thank you と快く署名に応じてくれました。横断幕や写真を止める人、ベンチに座っている人にこちらから声をかければ署名をしてくれる方も多く、日本でやるより反応がいいという声も。オバマ大統領に「核兵器のない世界」と口にさせた世論がアメリカにあることを実感したという参加者も。被爆写真に英文の解説を大きく付けてしっかり見てもらうこと、ゼッケンなどで訴えをしっかりと伝えることが効果的なこともわかりました。それぞれ1～2時間の行動で、数十筆から2～3百筆の署名が集まり、若い組合員、初めて署名行動に参加した組合員も、確信を深めました。日本に帰ってからの行動に活かしましょう。



全教・教組共闘の横断幕、ノボリ、各県の寄せ書きなどを掲げて、タイムズスクエアから国連本部へパレード



注目された4千羽の千羽ヅル（長野）

開会集会は、ブロードウェイ近くの観光地、タイムズスクエアの7番大通りを会場に行われ、2千人の日本人、アメリカ各地やヨーロッパからの参加者など1万人を超える参加者であふれかえりました。アメリカの平和団体はNUCLEAR FREE FUTURE（核兵器のない未来を）の青いプラカードを掲げて結集。「核兵器廃絶条約の交渉を米大統領に促す決議」を上下両院で採決したバーモント州から参加した若い女性グループが、「バーモントは核兵器廃絶を採決した」と誇り高く横断幕【右の写真】を掲げて行進していました。

全教・教組共闘の大きな横断幕も注目され、出発前から米国市





民がカメラを向け、Teachers Union だと言うと「日本から Teacher が平和のために来たのは Good だ」と驚きと感激の声も寄せられ、「私も教師だ」と握手を求めてくる市民もいました。全教横断幕は、千葉の3人の青年や埼玉、長崎、滋賀、長野の仲間が全教・日高教本部とともに持ち、「青い空は」「翼をください」「上を向いて歩こう」などを歌いながら行進しました。

愛知高教組の11人の参加者が持つ折り鶴でつくったNO NUKES!の横断幕には、高校生たちの平和の願いがいっぱい折り込まれています。長野・長水支部の米山さんが持ってきた4千数百羽の千羽ヅルは学校の子もたちが折ったもの、行進中も歩道からカメラがたくさん向けられました。黄色に青い字が映える全教・教組共闘のノボリが隊列のそこそこに立っているのもよく目立ち、全国から参加した仲間の連帯を実感しました。

各国の参加者、ニューヨーク市民が、互いに写真を撮りあい、握手を交わし、バッジや折り鶴を交換し、連帯を深めることができたすばらしいパレードでした。



高校生がつくった横断幕も（静岡高）



寄せ書きを持って参加の高知の若者3人



都教組の横断幕を持って行進する青年

NPT議長と国連軍縮上級代表に7百万筆の署名提出！

パレードが集結する国連近くのハマースヨルド広場には、船便で届けられた署名500万に、参加者が持参した署名とNYで集めた署名が合わさり、700万筆の署名用紙が積み上げられました。前日の爆発未遂事件で緊迫した厳しい警戒の中でしたが、NPT再検討会議のカバクテュラン議長と、国連事務局軍縮担当のドゥアルテ上級代表に、各国からの署名を直接提出することが実現しました。全教からも、井村中央執行委員が提出行動に参加しました。



パレードの到着が遅れ、約束の時間から1時間も遅れたにもかかわらず、ドゥアルテ上級代表は「私は署名を受け取るために今日来ています。みなさんのことをここで待ちます」と述べ、国連の外で到着を待ってくれました。国連本部前で、各国メディアも取り囲むなか、「これは私たちの意志であり、希望です！」と日本原水協の高草木事務局長が述べ、日本原水協と新婦人の代表が署名の一部を手渡しました。また、署名提出後に井村中執がドゥアルテ氏に駆け寄り、「私は教員です。日本から来ました。私たちのメッセージとピース・バードを受け取ってもらえますか」と述べ、全教からのメッセージと愛高教のスタンド折り鶴を快く受け取ってもらいました。

その後、なんと2人は「みなさんの署名をこの目で見たい」と、署名が積み上げられている広場まで移動。広場の入口は警察が封鎖していたのですが、カバクテュラン氏は「私は明日からはじまるNPTの議長です。署名を見に行きます！」と警察を説得して広場内へ。積み上げられた署名とともに、参加者との記念撮影に参加しました。小松全労連副議長や磯崎全教書記次長も握手を交わしました。



3日、NPT再検討会議が開会、28日までの審議始まる カバクテュラン議長が「昨日署名を受け取った、 市民社会の熱意に応えるべき」とあいさつ

カバクテュラン議長は、3日のNPT再検討会議の開会総会の冒頭に、「私は昨日署名を受け取りました。市民社会の熱意に私たちは応えなければなりません」と発言しました。私たちの草の根のとりくみがNPT会議に確実に届き、国際政治を動かし始めたことを示しました。また、パン・ギムン国連事務総長は、冒頭あいさつで、今年の8月6日に広島を訪れ、「核兵器のない世界に向かっていくことを示す」と表明し、2000年の会議で合意された「核兵器廃絶の明確な約束」の再確認を核保有国に求め、核兵器のない世界に向けた努力を呼びかけました。

4日には、日本原水協の代表が国連内でカバクテュラン議長に会い、署名の総数が691万2802筆に達したことを報告し、そのうち1522名の自治体首長ら（7知事、872市区町村長など）の署名を提出しました。これに対し、議長は、「原水協や市民社会などの努力を評価している。NPT会議は始まったばかりであり、これに倍する社会的な声、働きかけを強めてほしい」とスピーチしました。

これまでの運動と代表団の派遣が大きな成果をあげて、NPT再検討会議が始まりました。5月28日までの会議で実りある成果をかちとるために、引き続き、署名、宣伝、国民平和大行進、日本政府への要請など日本での運動を強めていきましょう。

ニューヨーク行動に参加されたみなさん

ごくろうさまでした！

全教のメールニュースも参考に、各地でただちに報告会を行い、運動強化の先頭に立ちましょう。

行動参加の経験や感想を200～300字、写真付きで全教に送ってください。

あて先 s_isozaki@zenkyo.org